

私たちのまち「垂井」

このたび、不破高校の生徒のみなさんが、町内のおいしい食べ物や行きたい場所を紹介し、地域の魅力をPRする「不破マップ」を作成したことから、早野町長とのふれあいトークが実現。マップを作成して、垂井町について感じることや、どんなまちになってほしいかなど、作成に携わった2年生の岡田来実さん、鈴木夢叶さん、渡邊麻央さんにお話を伺いました。

◀ 左から岡田さん、鈴木さん、渡邊さん



不破高校 × 町長 早野博文

町長…「わたしたちのまち垂井」というマップを作られたことを知って、みなさんに感じたことや気づいたことをぜひ聞いてみたいと思いました。よろしくお願いします。

作成のきっかけ

渡邊…私は不破高校へ入学を機に垂井に引っ越してきました。住んでみて、本当にいい場所だなと思います。しかし、町外から足を運んでくれる人が少ないと感じていて、どうにか私たち高校生の立場から、垂井のことをアピールして、良さを知ってもらいたいと思ったのがきっかけです。

町長…行政の力だけで外から人を呼び込むのは限界があると思います。若い人たちが「このまち良いよ」と言うのと、私が言うのではニュアンスが違います。これからは発信していただくと非常にありがたいです。

今の垂井町について感じることに

岡田…私の住むまちには飲食店などが十分にありません。このマップを作っていると、垂井町にはたくさん飲食店があり、しかもチェーン店ではないお店もたくさんあります。飲食店以外にも、お祭りやこいのぼりなど、垂井町ならではの文化も魅力的に感じています。

町長…人口3万人に満たないまちに、大手の飲食店が立地いただいているのがたいと感じています。それより人口減少が深刻です。人口減少に対応した施策に力を入れないといけないと感じています。みなさんの視点で「こんなことをやったらどうか」といった意見をどんどん出して欲しいです。

鈴木…私は朝倉運動公園のような大きな公園があることに魅力を感じています。幼稚園のときによく遊ばせていただきました。

町長…朝倉運動公園は、老朽化してきたことから現在大幅にリニューアルするための基本構想づくりを行っています。従来の施設を新しくするだけではなく、競技人口の推移なども踏まえながらあるべき姿を議論していきます。

渡邊…私はこのマップを配る際、多くの町民のみなさんと関わることでできました。そのなかで、あるイベントで関わってくださった人に声をかけていただいて、イベントでギターの演奏をさせていただいたり、ボランティアに参加させていただくことになりました。垂井町にはとても素敵なコミュニティがあってとても幸せなまちだと感じています。

どんな垂井町なら住みたい？

岡田…国道21号線以外の場所でお店を増やしたり、交通の便を良くするなど工夫してはどうでしょうか。

町長…栄えていることも大切ですが、隣の人ややさしい声かけをしてくれることや、都会にない安心感など、人間が本来求める価値観も大切ではないでしょうか。開発して都会に勝とうにも限度があります。例えば、見守ってくれる地域の人たちがいて、歩いて家まで帰れるというような安心感ですね。

鈴木…私は、昔から変わらないことも良いことだと思います。今ある垂井町の文化がこれからも続いていくのなら、垂井に帰って来たときに嬉しくなります。

町長…「古いものは壊して新しいものを作って欲しい」といった意見を聞きます。世界では今も戦争をしている国がありますが、それに比べて日本の暮らしたは安定しています。しかし、その安定した暮らしへの感謝の気持ちを忘れていく気がします。

渡邊…結婚や子育て世代にとって「住



みやすい」「子育てしやすい」ことが大切だと思います。この地域の場合、名古屋や大垣と区別化できるような、垂井町ならではの取り組みがあると、「垂井で子育てしてみようかな」と思う人が増えてくると思います。今の垂井町は、イベントに行くところ、知り合い同士が多く、笑顔で会話する様子が見られます。とても素敵だと思いますし、このまま変わらないうちがたいまちであって欲しいです。

町長…今日は早朝から不破高生のみなさんに駅周辺のごみ拾いをしていただき、みなさんの行動であたたかい気持ちになりました。みなさんのようなあたたかい心や感謝の気持ちを持って、今日いただいたご意見を、今後のまちづくりの参考にしたいです。今後も垂井町を応援していただければこれほど嬉しいことはありません。ありがとうございます。